北 海 道 浮 魚 ニ ュ ー ス

平成24（2012）年度12号

2012年8月1日

道総研　釧路水産試験場

ホームページ：http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm

◎平成24年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報発表される

7月31日に予報文が発表されましたのでお知らせします。

なお、下記のホームページに、より詳細な予報文が掲載されていますので、ぜひご覧下さい。

水産庁　URL：//www.jfa.maff.go.jp/ｊ/press/

【 漁況予報 】

予報期間：2012年8月～12月

対象海域：北西太平洋（道東沖から三陸沖）

対象漁業：サンマ棒受網

魚　　体：大きさは肉体長（≒体長）で表示し、便宜的に大型魚（29cm以上）、中型魚（24～29cm未満）、小型魚（20～24cm未満）およびジャミ（20cm未満）と区分した。

① 来遊量

来遊量は前年を下回る。

② 魚体

9 月には大型魚主体となるが、その後漁期中盤から中・小型魚の割合が高くなり、昨年より中・小型魚の割合は高くなる。

③ 漁期・漁場

大型船出漁後の漁場は色丹島南から南東沖合に形成される。道東沖の漁場は8月は来遊量が少なく低調であるが、9月になると来遊量は増加する。　三陸海域への南下時期は平年並で、10月上旬に漁場が形成される。

≪解説≫

① 来遊量

東北区水産研究所が毎年行っている漁期前調査結果から、例年6月～7月には日本沿岸にはサンマの分布は少なく、概ね東経150°～160°以東の沖合に多いことが明らかとなっている。漁期中のサンマ棒受網船のCPUEは9月～10月にピークとなることから、6月～7月の調査時に沖合に分布していたサンマ群が、漁期になると道東～三陸沖へ来遊し、盛漁期を迎えるものと考えられている。来遊量と魚群が漁場に来遊する時期は、漁期前に漁場外を含めた海域で行われた各調査結果で得られた海域ごとの分布量をもとに予測している。

東北区水産研究所の中層トロールによる漁獲調査から、推定資源量は160万トン（暫定値）と昨年の249万トンを下回り、2003年以降では2010年に次ぐ低い値であった。尾数ベースでも201億尾で昨年（282億尾）を下回り、2010年の138億尾に次ぐ低い値であった。海域ごとに資源量を見ると、1区では15万トン、2区では144万トンと、ともに過去10年間で3番目に低い値である。また、1区の推定資源量は1区、2区の合計値の9.7％とその割合は低く、採集された海域も主に東経159°以東であった。このように、漁期前調査時に西側の海域でサンマが少ない状況が継続していると考えられる。釧路水産試験場の北辰丸による流し網調査では、流し網1反あたりの漁獲尾数は6.6尾であり、昨年（6.1尾）を上回ったものの、2005年以降では昨年に次ぐ低い値であった。

また、開発調査センターが行った公海サンマ漁場開発調査結果でも、7月23日現在の操業船1隻1日当たりの漁獲量は約18トンと昨年の16.2トンをやや上回った。しかし、漁獲した海域のほとんどが東経160°以東であり、それ以西の海域では操業の対象となる魚群の分布は非常に少なく、西側には魚群が少ないと考えられた。

漁期前に行われた各調査の結果では、海域全体での推定資源重量および推定資源尾数から、今年の来遊量は昨年を下回ると判断される。また、魚群の来遊が遅れるために、漁期当初の漁況は低調に推移し、漁場は沖合に形成される。この後、東経159°以東で確認されている魚群が日本

近海に来遊するのに伴い漁況は上向き、昨年同様に9月中旬頃には漁場への来遊が増加すると考えられる。

② 魚体

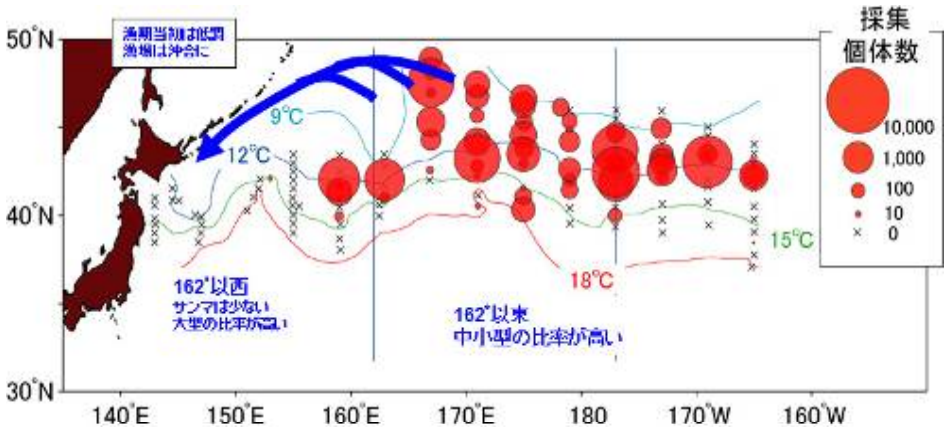
例年6月～7月に東北区水産研究所が実施している漁期前調査において、調査海域全体での1歳魚の割合が高い年は、8月以降のサンマ棒受網漁獲物の大型魚の割合も高くなる。

東北区水産研究所の漁期前調査、釧路水産試験場北辰丸による流し網調査および開発調査センターにより行われたサンマ棒受網試験操業による海域別の魚体組成をまとめると、東経158°以西では体長24cm未満の小型魚あるいはジャミが分布しているが、東経158°～160°では1歳魚の割合が高い魚群が分布しているもののその量は多くはない。東経160°以東の海域においては、魚群の分布量が多いものの0歳魚の割合が高くなっていた。

漁期には調査時に西側に分布した魚群から順次日本近海の漁場に来遊するものと考えられる。

漁期当初は漁場には小型魚からジャミサンマがほとんどであるが、東経158°～160°に分布していた魚群の加入に伴い、漁獲物は一時的に大型魚の割合が増加する。しかし、東経160°以東の海域から魚群が加入するのに伴い大型魚の割合は徐々に減少する。今年の調査時における1歳魚の割合（39%）は昨年（46%）より低いので、漁期を通した大型魚の割合は昨年の62%を下回ると判断される。

③ 漁期・漁場



近年（過去5年間）における100トン以上のサンマ棒受網船解禁直後である8月下旬の漁場での平均表面水温は15℃であった。7月下旬現在、道東沖では14℃～15℃の表面水温帯が分布しているが、例年8月下旬にかけてさらに上昇する。今年の道東海域の表面水温は7月下旬現在で昨年と比べて低めで推移しており、気象庁の海面水温・海流1か月予報（2012年7月21日～8月20日まで）によると8月中旬までは道東海域における表面水温は平年より高めになると予想されている。また、漁期前調査における魚群の分布状況からは魚群の来遊が遅れると予想される。以上のことから、100トン以上のサンマ棒受網船解禁（8月15日）後の漁場は、色丹島南～南東沖に形成される。

【 海況予報 】

・予測期間：2012年8月～9月　　・対象海域：北西太平洋

・親潮第1分枝の張り出しは平年並みで、三陸近海に冷水域が形成される。 ・津軽暖流の下北半島東方への張り出しは平年並み～やや強勢で推移する。

≪今後の見通し（8月～9月≫

①近海の黒潮の北限位置は極めて北偏（北緯36°40’以北）で推移する。

②近海の黒潮系暖水の北限位置はかなり南偏（北緯38°～38°30’）で推移する。

③根室岬南東沖の暖水塊は北東に移動し、金華山沖の暖水塊は北上する。常磐沖合に暖水塊が発生する。

④親潮第1分枝の張り出しは平年並み（北緯39°20’～40°50’）で推移し、三陸近海に冷水域が形成される。

⑤親潮第2分枝の張り出しは平年並み～かなり北偏（北緯39°30’～41°30’）で推移する。

⑥津軽暖流の下北半島東方への張り出しは平年並み～やや強勢（東経143°10’～144°）で推移する。

なお、海況の今後の見通しについては、下記のホームページを参照下さい。

東北区水産研究所（東北海区海況予報）

http://tnfri.fra.affrc.go.jp/kaiyo/kaiyoubu/predict/index-j.html

（文責：釧路水産試験場調査研究部、TEL：0154-23-6222、FAX：0154-23-6225）